

保存10年
見本

報告書発行日 ○○○○年○月○日

報告書番号 ABC-0001

石綿障害予防規則 第3条第2項に基づく
事前調査における石綿分析結果報告書(証明書)

報告書宛名がここに記載されます。

株式会社○○○ 様

貴社により委託を受けた石綿分析の結果は、下記の記載したとおりであることを証明します。

ただし、本分析の結果は、入手した試料の範囲に限定させていただきます。

記

1. 分析を実施した石綿分析機関等

名称	株式会社 日吉	分析実施者	日吉 太郎
所在地	〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908番地 TEL 0748-32-5001 FAX 0748-32-4192		
分析方法	JIS A 1481-1:2016 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第1部: 市販バルク材からの試料採取及び定性的判定方法		

2. 分析を実施した年月日

分析実施日	○○○○年○月○日 ~ ○○○○年○月○日
-------	-----------------------

お客様でご入力いただいたデータが反映されます。

3. 物件名称

業務名称	アスベスト建材分析
施設名または住所	某施設

検体の試料名称、吹付け材や形成板の一般名称や、建材の商品名称など。

4. 分析結果

試料名称	ご依頼された建材名称
------	------------

試料全体中のアスベスト含有量: 不検出、検出など結果が表示されます

アスベスト含有の有無を「検出」及び「不検出」で結果を記載。

層別分析の詳細:			
層番号	層構成比率	層の外観	アスベストの種類と想定質量分率
(裏側/躯体側)			
1	- %	-	-
2	- %	-	-
3	- %	-	-
4	- %	-	-
5	- %	-	-
(表層側)			
前処理方法 :	すりつぶし・ほぐし他		
非アスベスト繊維成分 :			
コメント :			

見本

1. 試料採取履歴

試料No. ABC-0001

試料受付日(試料搬入日)	〇〇〇〇年〇月〇日	
採取方法(受領方法)	送付	
採取年月日	〇〇〇〇年〇月〇日	
採取者氏名	依頼者	
建材名称	吹付けなど	
建物などの採取部位及び場所	採取部位	採取された部位
	場所	某施設など
試料の概要 (形状又は材質、試料の大きさ)	形状又は材質	
	試料の大きさ	

検体が弊社に到着した日を記載。

お客様でご入力いただいたデータが反映されます。

2. 試料調整の状況(分析試料の前処理方法)

灰化处理	実施	電気炉(マッフル炉)
酸処理	実施	2mol/L塩酸
浮遊沈降法	実施	

3. 実体顕微鏡観察の結果(層別分析詳細)

層構造の有無	無		
	層番号	層構成比率	層の外観
層の記載(比率・色・外観)	〈裏側〉 層1	(- %)	-
	層2	(- %)	-
	層3	(- %)	-
	層4	(- %)	-
	〈表側〉 層5	(- %)	-

見本

4. 分析条件

試料No. ABC-0001

4.1 分析室の温度

分析室の温度(°C)	25.0 ± 0.5 °C
------------	---------------

4.2 層別の分析結果

層番号	石綿の有無	検出されたアスベストの種類(推定質量分率)
層 1		
層 2		
層 3		
層 4		
層 5		

4.3 定性分析結果

石綿の有無	無
クリソタイル	
アモサイト	
クロシドライト	
トレモライト	
アクチノライト	
アンソフィライト	
石綿以外で確認された繊維	

※石綿の有無は、含有が確認された場合、有と表記し、不検出もしくは微量に検出の場合は、無と表記する。

「定性分析の結果、各繊維のアスベスト含有量の表記」について、「不検出」「微量に検出」「0.1%-5%」「5%-50%」「50%-100%」の内、「不検出」は、記入なしとし、「微量に検出」は、アスベスト繊維が微量(2本-3本程度)に検出され、非意図的混入が疑われるか、アスベスト含有量が 0.1 % 以下の可能性がある場合の表記とする。

※「石綿以外で確認された繊維」の例として、

ロックウール、グラスウールなどの人造鉱物繊維(MMF)、セルロース(CE)、合成有機繊維(SYN)、タルク(TA)、

ウオラスナイト(WO)、ネマライト(繊維状ブルーサイト、NE)、石膏(GYP)、セピオライト(SE)などがある。